

令和元年度 学校関係者評価報告書

奈良学園登美ヶ丘中学校・高等学校

1. 学校関係者評価実施日 令和2年3月11日(水)～23日(月)
1学期及び2学期に実施した保護者アンケート結果や学校教育全般にわたる説明を行い、学校関係者評価者よりご意見をいただく日を予定していたが、学校臨時休校により中止となった。
そのため、郵送により資料を送付し、評価書をいただいた。
2. 評価者名 藤井利秀、小沼民枝、北川郁美、山本晴美、有地真知
竹田美奈子、木下稔子、岡島貴美代、柳澤恭子

3. 評価結果

【大項目】

I 教育活動に関するもの

(1) 教育目標・教育計画

- ・幼稚園や小学校の回答では満足度が高い(8割～9割を占めている)のに対して、中高ではおよそ7割から8割に留まっています。回収率が5割なので正確にはわかりませんが、中高の保護者は、学校に対してより高い期待を持っているために厳しい評価となっているのではないかと感じました。
- ・保護者や生徒から毎年改善して欲しい項目が出されているのに、あまり改善されずその下の学年で行事が行われた際にも同じ問題点が出てくるということを耳にします。改善すべき点についてはしっかりと引き継いでいただき、思い切った改善を期待します。

(2) 教科指導

- ・同じ学年の中で教科の先生がクラスによって違う場合、授業の内容の足並みが揃っていないことがあるようです。学年内で授業内容に差がでないようにして欲しいです。
- ・中高については、小学校よりもかなりIT化が遅れていると言われ続けています。早急にご対応を望みます。その際は、ぜひ在校年数が少なくなっていく上級学年から進めていただきたいと思います。

(3) 道徳・特別活動

- ・クラブにも差があると思いますが、学校としてあまり力を入れていないように思います。実際、幽霊部員も多いことも気になります。お忙しい先生方が放課後にお時間を割いて指導していただくのは、昨今の働き方改革にそぐわないと思いますので、外部からのコー

チを利用するなど、先生方の負担を少し減らしてはどうか。

(6) 生徒指導

- ・以前は立ち止まって「こんにちは」と言って挨拶をしてくれるのが微笑ましくもあり、奈良登美生の良いところだと思っていました。ところが最近は挨拶をする子どもを見かけることが少なくなりました。先生方も挨拶をして下さる方が少なくなり、その様子を子ども達は見ているのではないかと思います。まず、先生方が率先して生徒、保護者、来客者に挨拶をされたら子ども達も見習い、先生方の話にも説得力が生まれてくるのではと思います。
- ・服装の乱れもよく見かけ、また、登下校のマナーの悪さも聞きます。校外での行動は正に学校評価につながり、外部の方の印象も違ってくるのではないのでしょうか。
- ・校種を超えた意見交換が出来ることが一貫校の良いところだと思います。未熟な子ども達です。いじめはされる側、する側どちらも傷が心に残りますので、子ども達に合わせた目線で接することにより、小さな変化にも気づけるような環境を先生方と保護者が力を合わせて、つくっていったらと思いました。

(7) 進路指導

- ・Y1でのキャリアリサーチやキャリアトーク講座などにより進路を考えていくきっかけとなりたいへん良かったと思います。また、今年度より大学探訪も実施していただき、より深く進路を考えるきっかけとなりました。
もし、可能であれば、キャリアトーク講座は保護者にこだわるものではなくもう少し色々な方面の方にお越しいただけるとさらに子ども達にとって良いのではないかと考えます。

【大項目】

II 学校経営に関するもの

(2) 安全管理

- ・大学建設中の子ども達の安全面が気になりますので、より一層の安全管理を徹底していただけたらと思います。